

会議録	
名称	平成30年度12月富士見市図書館協議会
開催日時	平成30年12月8日(土) 午前10時00分～12時00分
場所	中央図書館レセプションルーム
出席者	<p>○図書館協議会委員 渡辺志津子委員長 小森和雄委員(職務代理者) 木村多喜雄委員 佐藤千枝子委員 渋谷八重子委員 長ヶ原美博委員 野瀬武博委員 本間雄一委員 山崎美晴委員</p> <p>○教育委員会生涯学習課 鳥海課長 松田副課長 古川主査 矢澤主事補</p> <p>○図書館 原田中央館館長 清水副館長 神山副館長 長谷川鶴瀬西分館長 下川ふじみ野分館長</p> <p>○指定管理者 紀伊國屋書店公共図書館部 宮本 越智 青崎</p>
欠席者	関根衣都美委員
公開・非公開	公開
傍聴	なし
次第	<p>○報告・連絡事項</p> <p><input type="checkbox"/>平成30年9月～11月事業報告 (中央図書館・鶴瀬西分館・ふじみ野分館)</p> <p><input type="checkbox"/>第3次富士見市子ども読書活動推進計画について</p> <p><input type="checkbox"/>その他</p>
配布資料	<ul style="list-style-type: none"> ・図書館協議会12月定例会次第 ・平成30年9月～12月事業報告(中央図書館・鶴瀬西分館・ふじみ野分館) ・図書館まつり2018実施報告 ・富士見市立図書館広報誌『さざなみだより』ほか ・富士見市の座敷ぼうき巡回展示チラシ(委員より情報提供)
会議録確認	渡辺委員長

議事内容

- 1 開 会 神山副館長
- 2 委員長あいさつ (渡辺志津子委員長)
- 3 各館からの事業報告

<中央図書館>

- ・資料に基づき報告。特に音訳者養成講座(初級)、第1回富士見子どもビブリオバトル大賞決勝戦について説明。
- ・図書館まつり2018について報告。特にスペシャルおはなし会、お楽しみ貸出福袋、子ども司書図書館探検ツアー、富士山のみえるまち観光交歓展について説明。
- ・読書コンクール表彰式について生涯学習課より説明。

【質疑応答】

委員：図書館まつりの報告にあった「富士山のみえるまち観光交歓展」について。「富士見」とつく地名は全国に多々あるが、なぜ連携先として宇都宮市と鶴ヶ島市を選んだのか。

図書館：宇都宮市は、宇都宮市立南図書館の指定管理者が紀伊國屋書店であるため。鶴ヶ島市は、以前より職員同士で関わりがあり、連携先として依頼した。埼玉県内には、狭山市や上尾市に「富士見」の地名があり、今後も機会があればこのような企画を続け、連携を広げていければと考えている。

図書館：宇都宮市は富士山が見える北限と言われている。富士山に近い地域ではなく、遠隔地から富士山がどのように親しまれているかが感じられる展示になったのではないか。

委員：市町村合併によって「富士見」の地名は減っているようだ。市の名前として「富士見」が残っているのは貴重だと思う。

委員：生涯学習と歴史教育としてよい題材である。公民館や資料館と協力していくと良いのではないか。

<鶴瀬西分館>

- ・資料に基づき報告。特につるせ台小まつりでの工作会、職場体験、わらべうた講座について説明。

【質疑応答】

委員：南畑小学校でブックトークをしたとあるが、ブックトークを実施した学校名、回数、内容は図書館で記録しているか。

図書館：記録している。

委員：どこの学校、学年に、どんな内容のブックトークをしたのか記録するのがよい。記録し、地域差を把握することが今後の子ども読書支援で、

全校にまんべんなくサービスするために必要と考える。同様に、団体貸出も学校名、テーマ、冊数を記録していくことが重要。

図書館：ブックトーク、団体貸出いずれの実施データも、図書館要覧に反映させていく。

<ふじみ野分館>

- ・資料に基づき報告。特に図書館見学、読書へのアニマシオン、臨時休館中の職員研修について説明。

【質疑応答】

委員：図書館ルールクイズはとてもよい。赤木かん子の『調べ学習の基礎の基礎』という本がある。図書館の使い方や分類について子どもにも先生にも分かりやすい本である。改訂版は、富士見市のどの図書館にも入っていないので、ぜひ各館、また学校図書館にも配備を。

図書館：選書会議にかける。

委員：職員研修について。接遇マナー研修の講師は誰か。

図書館：紀伊國屋書店人材開発部の研修専門スタッフである。

委員：専門図書館協議会の接遇講習は大変良いので、ぜひ参加を。

4 第3次富士見市子ども読書活動推進計画について

図書館：2名の協議委員より、本計画についてのご質問、ご意見をいただいた。まず、ブックスタートについて。子ども1人につき1セット、1歳児健診時に健康増進センターにてブックスタートセットを渡している。病院で健診した場合は、図書館でブックスタートセットの受取が可能。

委員：配布率はどのくらいか？

図書館：健康増進センターにて1歳児健診受診している場合は、ほとんどの方に配布している。病院で健診を受ける方もいるので、富士見市の1歳児全体の内の配布率は把握できていない。

生涯学習課：富士見市で把握している1歳児は約1000人である。

委員：今は、市報を読まない人や健診を受けない家庭もある。ブックスタートでこのような本を配布していることが偶然にでも目に留まるようにし、周知した方がよい。図書館でブックスタートセットに入っている本を展示する、市役所にポスターを掲示すると配布率が高まるのではないか。

委員：ブックスタートセットを1000人に配布できるよう予算はとってあるのか。

生涯学習課：とってある。

図書館：次に、主に小学生への取り組みへのご意見について。委員よりお話いただければ。

委員：小学校低学年のうちは、本に親しみ、読み聞かせも喜んで聞いてくれるが、中学年になると本から離れていく子どもが多い。子どもと本、本と学びのつながりを確かなものとするためには、人の交流、情報交換を継続していくことが重要であり、格差をなくしていくことにもつながる。例えば、水谷小学校の読み聞かせボランティアが勝瀬小学校で活動した事例を聞いた。このような、ボランティア間、学校間での学び合いが重要と考える。ボランティアも継続が重要で、子どもに読んであげても聞いてもらえないとなるとやる気がなくなり、やめてしまう。

委員：同感である。やはり継続が重要と考える。

図書館：南畑小学校のブックトークは、2年ぶりに実施とのこと。学校司書にも得意不得意があり、また2年～3年で異動もあるので、継続が難しいようだ。

委員：子ども読書活動推進計画の委員長は生涯学習課課長である。中央図書館長はオブザーバーであり、指定管理者が、市が雇用している学校司書の情報をどこまで把握してよいのかという問題もある。連携という面では、生涯学習課長に尽力いただきたい。

図書館：委員よりいただいた小学生への取り組みについて、また前回協議会にて委員長より学校司書向けにメーリングリストを作成してはどうかという案について、現場の学校司書数名に聞き取りをしたので、報告する。

富士見市の学校司書の勤務形態は、1日4時間勤務。小学校と特別支援学校は年間120日、中学校は80日である。学校図書館運営の現状として、資料管理方法が統一されておらず、異動すると一から学校ごとの資料管理方法を把握するところから始めないとならない。

メーリングリストについて。教職員共有のパソコンはあるが、学校司書が使いやすい環境ではないので、メーリングリストだけ導入されても見ないという意見が多い。学校図書館にパソコンが導入されるのが理想ではあるがすぐには難しいだろうという学校司書からの意見が多かった。また、司書教諭（図書主任）にメーリングリストのような形で情報提供があり、それを学校司書が受け取るという方法もあるのではとの意見もあった。今回、学校司書からいただいた意見を、これから予定されている子ども読書活動推進計画連絡会議にて検討していく。

委員：勤務形態について。中学校の年間80日というのが問題。他市で学校司書をしている人から、他市と富士見市とを比べて、このような勤務

日数では読書率は上がらないという話を聞いた。

生涯学習課：いちはやく環境を整えたいと考えているが、パソコン等のハード面については、学校や学校教育課としっかり連携をとっていく必要がある。いかに情報共有をするかという点においては、環境整備だけでなく、学校司書の研修会回数を増やすことで情報共有できるようにするという方法もあるが、出張の回数を増やすことは、予算の問題もあり、ハードルが高い。学校や学校教育課と調整していく。

委員：第3次子ども読書活動推進計画ができて、学校と図書館の連携は良くなってきていると感じるが、まだまだ計画の内容が学校においては周知されてはいない。本校の図書主任、学校司書は、なんとか子どもに本を読ませたいという強い思いを持っている。パソコン等の環境整備も必要だが、まずはそういう思いを持った人が発信をしていくことで成果が出てくるのではないか。そのためにも、この計画を先生や校長へ周知させていく必要がある。新しい指導要領では「人間づくり」を重要視しており、知識だけでなく課題解決ができるような人を育てようとしている。そこで読書の必要性にいきつく。学校の中心にいる者が「子どもに本を読ませたい」と発信していく必要がある。

また、中学校の教員となぜもっと中学校の読書活動を充実できないのか話をした際、中学校では図書室を開放できないということだった。教員ではない学校司書だけを置いて図書室を開けておくことはできないのが現状であるとのことだった。本を読みたい子はいるはずなので、開放すればきっと来てくれると思うのだが。

委員：身分とコンプライアンスの問題である。

委員：先生の本に対する感覚を磨いていかなとイケない。先生も子どもと一緒に読書する、先生が読み聞かせボランティアに対して接遇の心を持つことが大切。また、小学校は6年間と長い。本を好きになることから、本から学ぶ、調べ学習へ移行していく。この時期に関わる人が重要だが、読み聞かせのボランティアから「子どもが読み聞かせを聞いてくれない」という声を聞く。

委員：ボランティア向けの読み聞かせの講習会を定期的に行うとよい。

図書館：ふじみ野小学校はボランティアが子どもたちに読み聞かせをする時間は、先生の会議時間になっている。先生は子どもたちと本について話したいが、読み聞かせを聞くことができないので本について話ができない。

委員：全ての学校がそのようになっているわけではない。例えば本校は子どもと一緒に教員も読み聞かせを聞く、自主読書の時間は教員も読書をしている。教員にもそのように指導している。教員がいない時間に読み聞かせをしている学校は少数ではないか。

委員：南畑小学校も担任の先生がいない時に読み聞かせをしている。低学年

の子どもたちは喜んで読み聞かせを聞いてくれるが、中学年になると先生がいない所で子どもたちを集め、読み聞かせを始めることも難しい。聞いてもらうこと自体が難しいとやる気を無くしてしまう。

委員：各校の具体的な事例を生涯学習課でまとめてはどうか。また、学校図書館の資料は限られている。限られた資料の中から、子どもの質問に最適な資料を提供することは、経験豊富な司書なら可能だが、ただ配置されただけの司書には難しい。調べ学習の時に、必要な本が無い、となると子どもたちの足は図書館から遠のく。少ない資料、人件費の現状で、重要なのは情報提供である。聞き取りの中で、学校司書同士が私費で情報交換をし、パソコンでの文書作成を自宅で行う場合もあるとの話もある。ボランティアと学校司書との線引きを難しくしている。やはり情報共有と連携が重要。例えば、次に行う学校司書研修を情報交換、懇談の場にしてはどうか。蔵書点検をワンパーソンで行うのは困難。すぐに対応は難しいが、各校のよい例、困っていること等の情報を集約し、計画の1年目に、どこの小・中学校にサービスすべきか把握し、対応していく必要がある。

委員：学校司書へアンケートをとるのもよいのでは？

委員：アンケートは市で行うなど、各所が分担するのがよいのではないか。

委員：地域格差があると感じる。よく学校名があがるのは、つるせ台小学校、鶴瀬小学校、ふじみ野小学校等がある。一方で、針ヶ谷小学校、みずほ台小学校、水谷東小学校等はあまり学校名が出てこない。図書館からの距離、地理的な問題で差がついている。質も大事だが、図書館は公共施設であることを考えるとまずは回数とバランスが重要ではないか。校長会等、先生方へ働きかけ、図書館から学校の働きかけが必要。

図書館：水谷東小学校には、昨年度ブックトークを行った。やはり学校司書とのつながりがあったためである。

委員：図書館と学校との結びつきには強弱がある。難波田資料館は、市内の小学校11校全校がくる。例えば、「まちたんけん」のルートに図書館を必ず組み込むことは可能か？

委員：資料館については市の社会科副読本に掲載があるため、必ず資料館へ行っている。

委員：同じように副読本に図書館を入れることは可能か。

生涯学習課：校長会で提案はする。

委員：図書館は資料館より身近な施設のため、特別に見学に行かなくてもというところがあるのでは。

図書館：学校連携は、トップダウンが上手く機能しないと難しい。各学年に1人くらい図書館に関心のある先生がいて、その先生との連携になる場合が多いので、継続が難しい現状である。

委員：人材の活用、人的交流を活発に。例えば、読み聞かせが得意な学校司書が自分の勤務校以外の学校へ行って読み聞かせをする等。そうして地域差をなくしていく工夫が必要。そのために、学校ごとの実態を把握する必要がある。よい事例、困っていること、ブックトーク等図書館との連携の内容や回数をまとめる。それを基にサービスが行き届いていない学校を明確にし、重点的にサービス計画をする等、計画初年度に課題を見つけて、対策していくべきである。

5 その他

○図書館協議会の開催回数について

委員：生涯学習課は年6回の協議会開催回数を確保している。図書館からの提案として、年4回ではという意見がある。議題がない場合は回数を減らすことも考えるとして、今年度は「子ども読書活動推進計画」が初年度で議題がある。計画について協議会で検討した事項を次年度初めから行動するために2月に開催したい。今年度の回数は目標を5回とするが、場合によっては6回としたい。

図書館：今年度は、次回は2月の協議会を開催し、計画についての意見交換をする。

○「座敷ぼうき」巡回展示について

委員：富士見市協働提案制度採択事業として「座敷ぼうき製作技能伝承者の育成事業」を行っている。来年、座敷ぼうきの巡回展示を行い、中央図書館でも展示を行う。

6 次回の開催日程について

委員：2月9日（土）に決定。次回の資料として、各協議委員、生涯学習課、図書館は各学校の子ども読書に関する具体的な事例や情報を1月25日までに図書館へ。今年度のブックトーク等の実施記録は生涯学習課にある情報を集約し、富士見市の図書館と学校との地理関係が分かるものと合わせて次回協議会資料としてあるとよい。

委員：学校内の図書館運営の情報を集約するために、校長会でのアンケートを行う。

7 閉会（渡辺委員長）